

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 6 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520814

研究課題名(和文) 難民となった牧畜民の生存にかかわる経済活動の人類学的研究

研究課題名(英文) Anthropological Study on the Economic Activities for Survival of the Refugee Pastoralist

研究代表者

曾我 亨(Soga, Toru)

弘前大学・人文学部・教授

研究者番号：00263062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：国家の周辺地域におかれた牧畜社会は、生態・経済・政治資源をめぐる民族間の対立が頻繁におきている。本研究は、難民化した牧畜民の生存にかかわる経済活動について研究した。南エチオピアで避難生活をおくるガブラ人を対象に調査を行い、ラクダ交易が彼らの生存に重要な役割を果たしていることを明らかにした。ラクダ交易には、南エチオピアで飼育している肥ラクダを海外に輸出する交易と、北ケニアで飼育されている瘦ラクダを南エチオピアに輸入する交易の二つが存在する。それぞれの経済的インパクトについて実証的な研究をおこなった。

研究成果の概要(英文)：Pastoral people in East Africa have often met the ethnic conflicts, and become refugee. This research focuses on the economic activities that help the survival of the refugee. The Gabra Miigo met ethnic conflict with the agro-pastoral Guji in 2006. The Gabra became refugee around Moyale town in the border Kenya and Ethiopia, while some remained Surupa area in Ethiopia to keep livestock. After become peace, the Gabra Miigo engage the new camel trading by utilizing the family network between Moyale town and Surupa area. The new camel trading consists of two parts: (1) the fat camel trading that export from Surupa area to abroad and (2) the thin camel trading that import from northern Kenya where suffered under a severe drought to Surupa area. These trading also accompanies a lot of works. Not only the Gabra Miigo, but also the Guji engaged in those works. The camel trading seems to create a good business tie between the Gabra Miigo and the Guji who are erstwhile enemy.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：難民 民族紛争 経済活動 エチオピア ガブラ・ミゴ

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初から現在にかけて、エチオピアはめざましい経済発展を遂げている。しかし、国家の周辺地域におかれた牧畜社会では、生態・経済・政治資源をめぐる民族間の対立や、人口の増加、旱魃による家畜増加率の低下や略奪による家畜頭数の減少が原因で、牧畜生産活動は大きく低下してきた。また、南エチオピアでは1964年、74年、91年、2005年に大規模な民族紛争が起き、そのたびに人びとは、難民・避難民生活を送ることになった。10～17年ごとに繰り返される難民・避難民生活は、この地域の牧畜生産の持続的な発展を大きく阻害していた。

本研究は、難民化する牧畜民の生存を保障するにはどのような手立てがあるかを構想するために立案された。そこでは2つのことが問題になる。ひとつは難民化した牧畜民が自力で生活を再建していくための生業に関する問題であり、他方は、難民化した牧畜民が帰還する際に、かつて敵対していた民族との関係をどのように融和するかというセキュリティに関する問題である。

研究開始当初、すでに難民問題解決にはガバナンスの強化や地域開発の重要性などが指摘されていた。しかし、開発された地域が、政治的に稀少な資源となり、かえって民族紛争を引き起こすこともあり、他の道を探る必要があった。

この点に関し、申請者は2006～9年にかけて「稀少資源をめぐる紛争」に関する現地調査を進めるうちに、難民・避難民生活をおくる人びとが、新たな経済活動を創造しつつあることに気づいた。2005年の武力紛争の際、人びとは家族の一部を家畜と共に牧野に残して逃走し、それ以来、家族は、モヤレ町やキンニス地域、フナン・ニヤータ地域などで難民生活をおくる難民セクターと、スルパ近郊の牧野で放牧活動をおこなう牧畜セクターに分かれていたが、新たに創造された経済活動は、難民セクターと牧畜セクターを結びつけるようにしておこなわれていた。

さて、この新しい経済活動には、(1)難民セクターに暮らす人びとの生存を保証しているからだけでなく、(2)かつて武力紛争がおきた地域において、異民族間の新たな労働協力を生み出しているように思われた。申請者は、この新たな経済活動に、難民問題を解決する糸口があるのではないかと考え、本研究を立案した。

2. 研究の目的

本研究ではエチオピアのオロミア州南部を中心に現地調査をおこない、4年の調査期間内に、(1)2005年以降、長期間にわたって難民生活をおくる人びとの生存を可能にしてきた経済活動を網羅的に記述すると共に、家族の分離生活のなかから創造されつつある新たな経済活動を生態人類学的手法によって詳細に記述する。また、(2)その経済活

動にともなって地域のなかに作りだされる複数の民族にまたがる相互依存の関係を明らかにし、新たな経済活動がこの地域の恒久的な安定にいかにか寄与するかを分析する。さらに、紛争地域に安定をもたらす経済活動の「相互依存-関係構築モデル」を構想することを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、徹底した現地調査を牧畜セクターと難民セクターのそれぞれについて、以下の調査をおこなう。

(1)難民の生存を可能にする諸生業活動の詳細

諸生業活動の網羅的記述

エチオピア国スルパ町周辺の牧畜セクターの人びとは、潜在的な民族紛争に備えて今も幹線道路沿いに居住している。この傾向をGPSで確認する。また諸生業活動(とくに現金獲得のための活動)を生態人類学的手法で記述する。モヤレ町の難民セクターでは、現金獲得のために何がおこなわれているか、また援助物資などへのアクセスについてインタビュー調査する。

新規の経済活動の仕組みの解明

エチオピア国モヤレ町の難民セクターと、スルパ町周辺の牧畜セクターとを結び経済活動の仕組みを詳細に記述する。

(2)新しい経済活動が地域に作りだす相互依存関係の解明

他民族の参入を認めるにいたった経緯

スルパ町では、トラック輸送されてきた家畜の積み卸しや、モヤレ町におくる大量のミルクの積み込みなど、異民族が相互に協力する場面を参与観察すると共に、その現場で働く人びとに個別のインタビュー調査をおこなうことで、ガブラ・ミゴが先導する経済活動に他民族の人びとがどのように参入してきたかを明らかにする。

他民族との相互依存関係の実態調査

スルパ町では、共同労働する人びとの成員調査をおこない、メンバーの広がり把握する。

(3)グローバル経済が地域のセーフティ・ネットにあたえる影響の解明

難民セクターの人びとによる家畜の買い付け活動の調査

家畜のトラック輸送には、国境付近で難民・避難民生活をおくる人びとが重要な役割を果たしているようである。エチオピアのモヤレ町は、家畜をトラック輸送する起点となっているが、ここに集まってくる家畜にはケニア側からもちこまれるものも少なくない。エチオピア側だけでなく、ケニア側においても調査をおこない、モヤレ町に家畜をあつめ、さらにスルパ町方面に送りだす過程に、難民セクターの人びとがどのように関与しているかを明らかにする。

4. 研究成果

本研究では、とくにラクダの交易活動を中心に成果をあげることができた。

(1) この交易活動には、(1)スルパ地域(牧畜セクター)の太ったラクダをドバイに向けて輸出するグローバルな交易活動(肥ラクダ交易)と、(2)モヤレ町在住の商人と難民たち(難民セクター)が協力して南エチオピアから北ケニアにかけての広い地域から痩せたラクダを集め、これをスルパ地域(牧畜セクター)に輸送して肥育するローカルな交易活動(瘦ラクダ交易)の2つから構成されていることが判明した。

(2) つぎにこの交易活動は、交易に付随する多くの活動(売買の代理人をする、家畜市の日まで家畜を飼育する、家畜の群れを移動させる、家畜をトラックに積み降ろしする、トラックの手配をする)を生み出しており、多くの現金獲得の機会を与えていることが判明した。牧畜民ガブラの人々にとって、これらの経済活動はほぼ唯一の現金獲得の機会となっており、生存を支える重要な役割を果たしていることが明らかになった。

(3) これらの交易活動には、かつてガブラと敵対した異民族グジの人々も参加していることが判明した。異民族の協調には、(1)異民族がともにひとつの組合(たとえばラクダの積み降ろし組合)をつくり、交易活動に付随する活動に従事する場合と、(2)異民族がそれぞれ得意な分野の仕事に分業して担当する場合(たとえば牧畜民ガブラがラクダの飼育を、農牧民グジがトラックの手配を担当する)があることが判明した。

(4) さらに、瘦ラクダ交易と肥ラクダ交易とは、それぞれ異民族をまたがり、複雑に関連していることが判明した。具体的には、ガブラがモヤレ地域から集めてきた瘦ラクダを、スルパ地域に住むグジが肥育し、数ヶ月に肥ラクダとして海外に向けて輸出していた。異民族の経済活動の接続について明らかにすることができた。

(5) 2010年9月から12年9月にかけて現地在住の調査協力者の助けを得て収集したラクダの交易活動の記録から、肥ラクダ交易と瘦ラクダ交易のふたつの交易活動の実態を明らかにした。具体的には、月別の交易活動を明らかにし、これらの交易活動が地域にもたらす経済規模を比較し、2010/11年から2011/12年にかけて肥ラクダ交易が140%増加したのに対し、瘦ラクダ交易が82%に減少していることを見出した。この背景には、東アフリカで長く続いていた干ばつが集結し、新たなマーケットが作られつつあることが背景にあると分析した。

(6) また、月別の交易活動には大きな変動がみられたが、この変動の原因を、気象要因(北ケニアの大旱魃と降雨)、グローバル要因(イスラム世界の宗教的活動)、文化的要因(現地の牧畜社会の行動)などの点から検討し、これらの交易活動がかかえるリスクを

明らかにした。

(7) 最後に、当初の計画では、この交易活動を、紛争地域に安定をもたらす経済活動の「相互依存-関係構築モデル」として取り上げる予定であったが、この点については更なる探求が必要であるとした。南エチオピアでは、1974年、1991年の政権交代時に、権力の空白について大規模な民族衝突がおきている。2012年7月に、再びこの地域で民族衝突が起きたが、この原因をメレス首相の入院と死亡に関連していると人々は解釈していた。以前の衝突とは異なり、今回の衝突は牧畜民ボラナと牧畜民ガブラのあいだにおいてのみ起き、交易を共にしている牧畜民ガブラと農牧民グジは協調関係を維持していた。その意味で、交易活動の存在が民族衝突を抑制するように働いたと解釈することも可能であるが、直接的な効果があったかどうかは、現地の人々自身の評価を調べ、検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

1. Soga, T.: Refugee Life as an Extension of Pastoral Life: Survival Strategies of the Gabra Miigo Pastoralists in Southern Ethiopia. *Nilo-Ethiopian Studies*. 2011; 16: 13-27. [査読有]

[学会発表](計 6件)

1. Soga, T.: *Pastoral Identities in East Africa for Surviving Neoliberal Era*. A paper presented at the 112th Annual Meeting of the American Anthropological Association, November 20-24, 2013, Chicago, USA [査読有]
2. 曾我亨. 「難民の生存を可能にする新たな経済活動(2): 南エチオピアにおけるラクダ交易の変化」2013年5月25-26日、日本アフリカ学会第50回学術大会、東京大学. [査読有]
3. Soga, T.: *Pastoral Identities for Surviving Neoliberal Era*. A paper presented at the International Symposium of "Indigenous Identity and the Discourse of Indigeneity in the Age of Neo-liberalism," January 26-27, 2013, Center of Oriental Studies, The University of Tokyo, Japan [査読無]
4. 曾我亨. 「難民の生存を可能にする新たな経済活動: 南エチオピアにおける複数の民族が従事するラクダ交易」2012年5月26日、日本アフリカ学会第49回学術大会、国立民族学博物館. [査読有]
5. Soga, T.: *Ethnic Conflict and New Ties between Pastoral Groups in Southern Ethiopia*. A paper presented at the 110th Annual Meeting of the American Anthropological Association, November 16-20, 2011, Montreal, Canada.

〔査読有〕

6. Soga, T.: *Can the non-settled pastoralists become an indigenous people?* A paper presented at the International Workshop of Negotiation of Indigenous Identity, December 3-5, 2010, National Museum of Ethnology, Japan〔査読無〕

〔図書〕(計 6件)

1. 曾我亨, 「生業」松田素二編『アフリカ社会を学ぶ人のために』世界思想社, 2014, pp.56-69.〔査読無〕
2. 曾我亨, 「制度が成立するとき」河合香史編『制度』京都大学学術出版会, 2013, pp.1-18.〔査読有〕
3. Soga, T.: *Perceivable "Unity": Between Visible "Group" and Invisible "Category."* In K. Kawai ed. *Groups*, Kyoto University Press, 2013, pp.219-238.〔査読有〕
4. 曾我亨, 「砂漠の民—過酷な環境を生き抜く工夫」松田素二・津田みわ(編)『ケニアを知るための55章』明石書店, 2012, pp.37-41.〔査読無〕
5. 高倉浩樹・曾我亨, 『シベリアとアフリカの遊牧民』東北大学出版会, 2011. 全205頁〔査読有〕
6. 曾我亨, 「国家に抗する拠点としての生業—牧畜民ガブラ・ミゴの難民戦術」松井健編『生業と生産の社会的布置』昭和堂, 2011, pp.389-426.〔査読有〕

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

曾我 亨 (SOGA TORU)

弘前大学・人文学部・教授
研究者番号: 00263062

(2) 研究分担者
()

研究者番号:

(3) 連携研究者
()

研究者番号: